



そーせいグループ株式会社

株主通信

第27期決算号

2016年4月1日—2017年3月31日



そーせいグループは
会社理念と中長期戦略に
基づき、世界屈指の創薬
技術により生み出される
画期的な新薬の研究開発に
取り組んでいます。

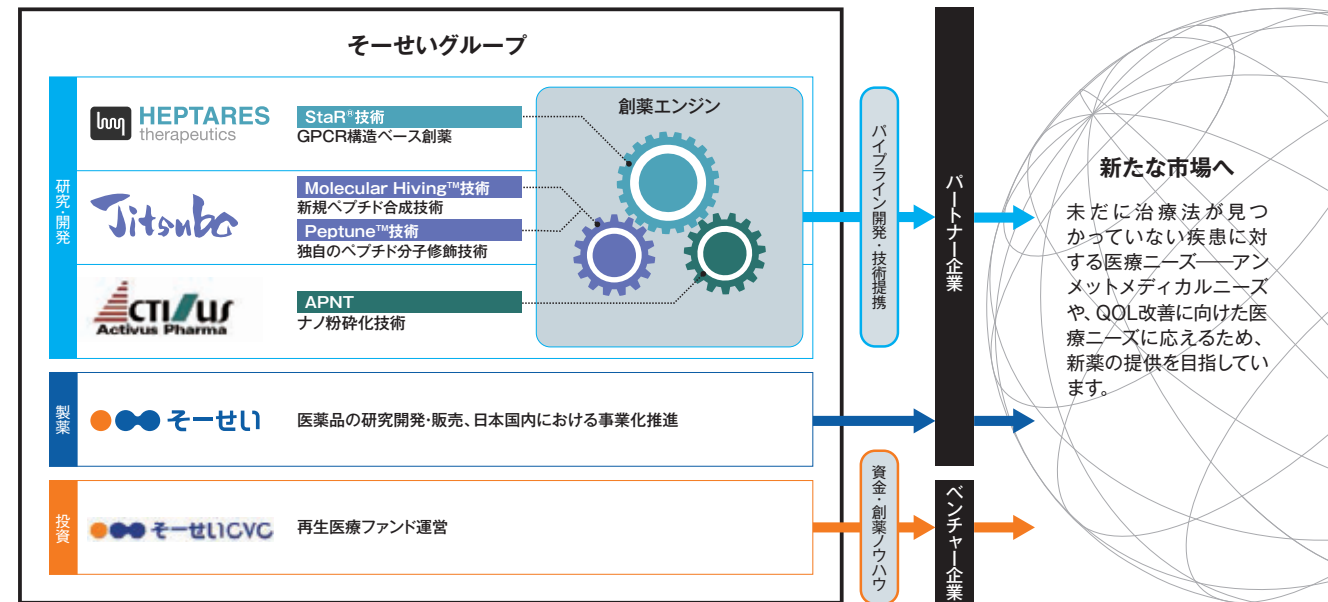
VISION
日本に軸足を置いた国際的なバイオ企業になる

MISSION
新薬の提供を通じて、世界中の人々の健康・生活の質の向上に寄与する

CORE VALUES
Sosei Way
Sosei Wayとは、私たちが大切にしている不変の行動規範です。

- **INTEGRITY and ACCOUNTABILITY** 誠実性と信頼性
信頼される誠実な発言と行動をします。
- **PASSION** 情熱
目標達成のため、信念と情熱を持って行動します。
- **COURAGE and RESILIENCE** 勇気と粘り強さ
失敗を恐れずに勇気を持って挑戦し続け、新しい価値を創造します。
- **OPENNESS** 寛容さ
立場を問わず、意見交換、提案、ノウハウの共有が容易に行われるオープン・カルチャーを促進します。
- **TEAMWORK** チームワーク
円滑なコミュニケーションを通じ、柔軟な発想とチームワークで、共通の目標達成を目指します。

そーせいグループ体制図



‘グローバルな
バイオ企業になる’
というビジョン実現に向け、
中長期ビジネス戦略を
加速しています。

代表執行役社長 CEO
ピーター・ベインズ



そーせいグループは、中長期ビジネス戦略における複数の成長目標を達成したことにより、2017年3月期においては良好に事業が進捗し、着実に業績を上げることができました。このたび、このような経営成績をみなさまにご報告できますことを喜ばしく思います。主な実績としては、予定通り、AstraZeneca社およびTeva社との提携プログラムが引き続き進捗していること、早期研究開発段階にある当社独自のパイプラインが拡充され、前臨床段階に到達しつつあること、GPCRをターゲットとした世界屈指の研究開発の機能をさらに拡大・強化させるための取り組みに力を注いだこと、そして、最も重要なこととして、Allergan社との新規ムスカリン受容体サブタイプ選択的作動薬化合物群の開発・販売に係る提携契約を締結し、これらの研究開発プロジェクトも期待通りに進捗していることが挙げられます。

財務&ビジネスハイライト

2017年3月期においてそーせいグループは、主要な事業目標を達成し、複数のビジネスにおける堅調な進捗により、強固な財務・業績を報告することができました。

当社子会社であるHeptares社が開発した、アルツハイマー病等の中枢神経系疾患の治療に向けたムスカリン受容体サブタイプ選択的作動薬化合物群の開発および販売に向け、2016年4月にHeptares社とAllergan社との間の提携契約を締結しました。これにより、当会計年度においては125百万米ドルの契約一時金を受領しました。本提携においては、第I相、第II相、第III相と臨床試験が段階的に進み、それらの化合物が上市に至った際には、最大約665百万米ドルの開発マイルストーンを受領することができ、さらに

上市後は、販売に関連したマイルストーンとして、最大約2,575百万米ドルを受領することが可能となっています。加えて、このたびの提携により開発することのできた全ての製品に関して、売上高に応じた最大2桁比率の段階的ロイヤリティを受領することができます。また、Allergan社は、Heptares社と共同で実施する研究・開発プログラムに最大50百万米ドルの資金を提供します。

2015年8月にAstraZeneca社と、複数のがん種を標的とした新規がん免疫療法開発に関する提携契約を締結しました。2016年6月にがん免疫療法の候補薬であるAZD4635 (HTL1071)が、第I相臨床試験において最初の被験者に投与されたことを契機に、Heptares社は提携先であるAstraZeneca社より10百万米ドルを受領しました。この契約のもと、AstraZeneca社はがん免疫療法の低分子化合物であるアデノシンA_{2A}受容体拮抗薬AZD4635 (HTL1071)を開発、製造、販売するグローバルな独占的権利を獲

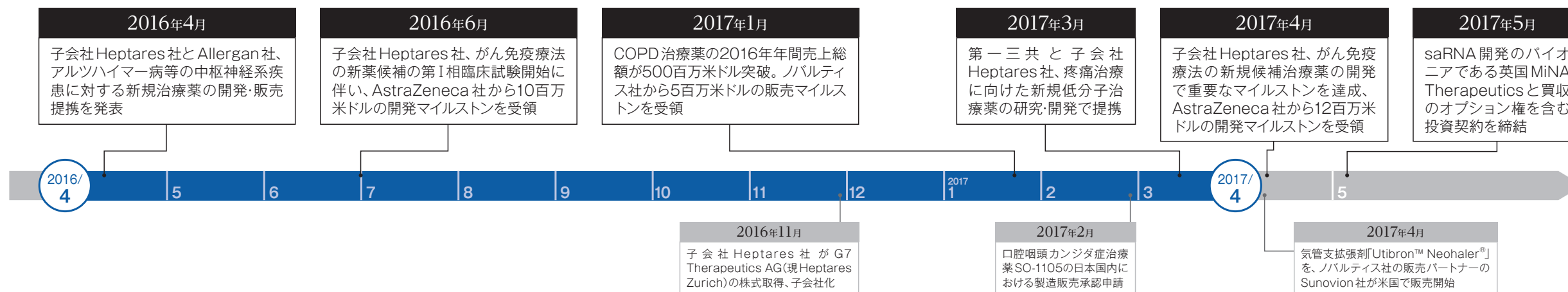
得しました。AstraZeneca社は、低分子がん免疫療法の候補治療薬であるアデノシンA_{2A}受容体阻害薬AZD4635 (HTL1071)単剤、既存の免疫療法ポートフォリオに組み込んだ併用、両方の臨床試験を実施する予定です。当会計年度終了後の2017年4月に、AstraZeneca社が開発した免疫チェックポイント阻害薬デュルバルマブ(durvalumab)とAZD4635 (HTL1071)を併用すると、アデノシンが介在するT細胞の機能抑制を解除し、T細胞の抗腫瘍免疫性を高めることを明確に実証した前臨床試験が成功裏に完了したことで、12百万米ドルのマイルストーンを受領しました。今後の研究開発や承認申請が完了しますと、最大500百万米ドルのマイルストーンや、販売高に応じた最大2桁比率の段階的ロイヤリティを受領することも可能となっています。

2017年3月に、第一三共株式会社(以下、第一三共)と疼痛緩和に極めて重要な役割を持つ単一のGタンパク質共役受容体

(GPCR)をターゲットとした新薬研究およびライセンスに関する契約を締結しました。この契約の下、第一三共が指定した単一のGPCRをターゲットにした新規低分子治療薬の探索を行います。第一三共は、当該治療薬の開発・製造・販売のグローバルな独占的権利を取得します。本提携により、Heptares社は契約一時金4百万米ドルを受領、今後、約8百万米ドルの研究支援金を受領します。加えて、研究開発・販売に関するマイルストーンおよび新薬の純売上高に応じたロイヤリティを受領することになります。

当会計年度のロイヤリティ収入は大幅に増加しました。これは主に、当社の提携先であるノバルティス社のウルティブロ®ブリーズヘラー®(Ultibro® Breezhaler®)とシーブリ®ブリーズヘラー®(Seebri® Breezhaler®)両剤の売上に関連するものです。2017年1月25日にノバルティス社が発表した、2016年のシーブリ®ブリーズヘラー®とウルティブロ®ブリーズヘラー®の年間販売額は

複数のビジネスにおいて堅調な進捗を見せた2017年3月期



glossary

- **パイプライン**
医薬品としての承認に向けて開発を進めている製品群
- **マイルストーン収入**
医薬品開発の進捗に伴い発生
- **ロイヤリティ収入**
製品上市後、売上高に応じて発生

社長メッセージ

512百万米ドルでした。両剤の年間販売額が500百万米ドルを超えたことから、ノバルティス社より5百万米ドルのマイルストーンを受領したことも当期の売上収益に含まれています。

そーせいグループでは、GPCRの固定化およびGPCRをターゲットとした構造ベースドラッグデザインに関する科学技術分野におけるHeptares社のリーダーシップをさらに強化し、その機能や能力をさらに進展させるための活動も行ってきました。2016年11月、Heptares社によるG7 Therapeutics社(現在のHeptares Zurich)の子会社化は、Heptares社のStaR®技術を補完する目的でした。これにより、早期段階における研究活動を加速させ、同時に、従来は困難であった標的Gタンパク質へのアクセス能力を向上させることができると期待されています。

GPCR研究の領域で世界をリードする研究機関と協働する当社のORBITプログラムに、拡大し進捗を続ける新薬候補から成る自社独自のパイプラインを組み合わせて、持続的で高品質の創薬を可能にします。このように、将来にわたってパイプラインを構築するための基盤作りに取り組んでいます。

日本においては、口腔咽頭カンジダ症治療薬SO-1105の第Ⅲ相臨床試験を終了し、国内における本剤の製造販売承認申請を行い

ました。販売についてはすでに富士フィルムファーマ株式会社と独占販売契約を締結しています。

以上をまとめますと、当会計年度における業績は、売上収益18,901百万円(前年同期比131.9%増)、営業利益12,389百万円、税引前利益12,483百万円、当期利益9,638百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益9,797百万円となりました。

中長期の展望

中期研究開発段階に進むバイオ企業へ ——直近12~18ヶ月の見通し

そーせいグループのビジョンは、世界をリードするグローバルなバイオ企業になることです。これは野心的な目標であり、これから、ビジネスモデルにおけるいくつかの重要なステージを達成し、進化していくことが求められています。過去2年間、当グループのビジネスは良好に進展し、今日では第I相臨床試験入りを果たした提携パイプライン(Wave1)と、前臨床段階にあるアセットから成る、拡大を続ける自社開発パイプライン(Wave2)を持つ、早期研究開発段階のバイオ企業として堅固な地位を有しています。第II相

2017年3月期の業績

	当期経営成績	前期比
売上収益	18,901百万円	132% 増
営業利益	12,389百万円	1,052% 増
当期利益	9,638百万円	-
EPS(基本的1株当たり当期利益)	579.97円	-

臨床試験開始が期待されるWave1のリードアセットならびに強力でバランスのとれたWave2と区分される自社独自のパイプラインに支えられ、現在、中期開発段階のバイオ企業に進展していく準備を整えています。

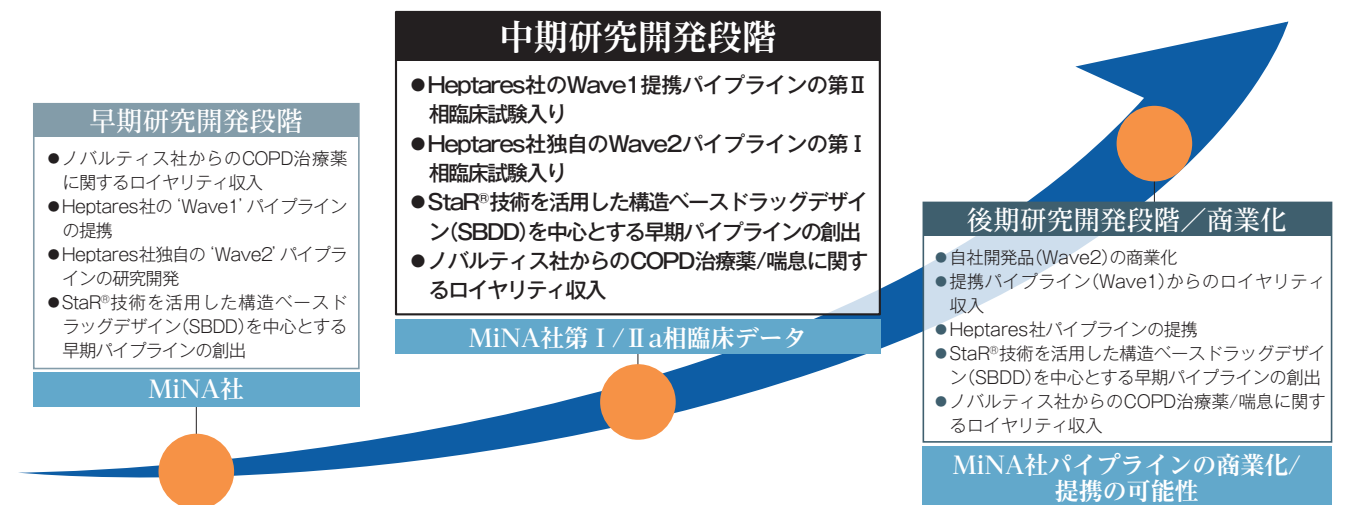
当会計年度後に、小分子活性化RNA(saRNA)のバイオニアである、英国のMiNA Therapeutics(以下、「MiNA社」と買取の独占的オプションを含む投資契約を締結しました。MiNA社に対して3,500万英ポンドの初期投資を行い、これにより全株式の25.6%を取得、MiNA社が現在実施中のMTL-CEBPAの第I/IIa相臨床試験から今後得られるヒト投与臨床試験データの評価結果にもとづき、MiNA社を買収する独占的オプションを取得しました。MTL-CEBPAはMiNA社が開発した進行肝がんの治療に向けた候補薬で、現在臨床試験を行っています。

MiNA社との提携は、パイプライン開発の加速、Heptares社の世界屈指のGPCR技術プラットフォームの補完といった当グループの戦略とも一致しており、グローバルなバイオ企業になるという当社ビジョンを戦略的に強化できる可能性を秘める絶好の機会であると考えています。

そーせいグループは「グローバルなバイオ企業になる」というビジョンの実現に向けた旅路において、この2年間大きく前進しており、この胸高まる勢いを継続することのできる強固な立ち位置にいると認識しています。今後も株主のみならず、そーせいグループのさらに胸高まる成長を共に分かち合えるものと期待しています。

みなさまからの変わらぬご支援に感謝するとともに、引き続き、ご支援・ご協力のほど、よろしく願いいたします。

中長期ビジネス戦略



主なグローバル大手製薬企業との提携

提携年月	提携先	適応
2015年8月	AstraZeneca社	がん免疫療法
2015年11月	Teva社	片頭痛
2016年4月	Allergan社	アルツハイマー病等の中枢神経系疾患
2017年3月	第一三共	疼痛緩和

小分子活性化RNA (saRNA)における新規治療法開発のパイオニア、MiNA 社買収のオプション権を含む投資契約を締結。 MiNA 社は、進行肝がん治療に向けた MTL-CEBPA の第I/IIa 相臨床試験を実施中

2017年5月にそーせいグループは、小分子活性化RNA (saRNA) における遺伝子のアクティベーションメカニズムを利用した新規治療法開発のパイオニアである英国のバイオ医薬品企業「MiNA Therapeutics 社」との間で、買収の可能性を含む投資および独占的オプション契約を締結しました。

● MTL-CEBPA について

MTL-CEBPAは、肝細胞などの分化の方向性を制御するCEBPA : CCAAT / エンハンサー結合タンパク質α(C/EBP-α)と呼ばれる転写因子(肝機能を調節する重要なマスターレギュレーターとして知られている)をコードしているCEBPA 遺伝子に作用し、特異的に活性化を促す小分子活性化RNA (saRNA)です。この標的はこれまで「新薬開発にはつながらない(undruggable)」と見なされてきました。CEBPAの発現レベルは肝疾患患者では減少しており、MTL-CEBPAは、CEBPAの発現を正常レベルまで回復することにより、肝疾患の進行を遅延あるいは抑制し、また肝機能を改善することが、肝がん、肝硬変、非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)、非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)のモデル等、多くの前臨床試験において示されています。

● 開発について

MTL-CEBPAは、さまざまな疾患の治療に向けて鍵遺伝子を活性

化するsaRNA 療法的设计および開発に適用されています。現在、MTL-CEBPAは進行肝がん(肝細胞がん : HCC)患者を対象としたヒト初回投与第I相臨床試験であるOUTREACHにおいて評価を受けています。HCCに関しては奏効率の低さ、再発率の高さ、既存治療の安全性プロフィールの悪さから、明確なアンメットニーズが存在しています。

将来、MiNA TherapeuticsのsaRNA プラットフォームを他の遺伝子標的に適用することが可能となり、その結果、革新的な製品によるパイプライン構築が可能になると信じています。



新CFOのご紹介

2月1日付で Andrew Oakley 氏を Chief Financial Officer (CFO、最高財務責任者)に迎えました。幅広く多様なファイナンスの経歴を有する Oakley 氏を新たに加え、さらに成長を加速します。

Andrew Oakley (アンドリュー・オークレイ)氏は、マッコーリー大学経済学部を卒業後、ロンドン・ビジネス・スクールにてMBAを取得した豪州公認会計士です(1987年より)。当社CFO選任以前は、英国バイオ医薬品企業であるVectura社で取締役チーフ・フィナンシャル・オフィサーおよび総務部長を務めました。Vectura社勤務以前は、スイスバイオ医薬品企業であるActelion社のチーフ・フィナンシャル・オフィサーとして、10年以上財務部門を統率していました。また、職歴は多岐にわたり、これまでにグローバル企業であるAccenture社ではシニアファイナンス、大手グローバル建材メーカーでは執行役を担い、豪・英・米の金融機関では数年にわたりエクイティ・アナリストなどを経験しています。



CFO
アンドリュー・オークレイ
(Andrew Oakley)

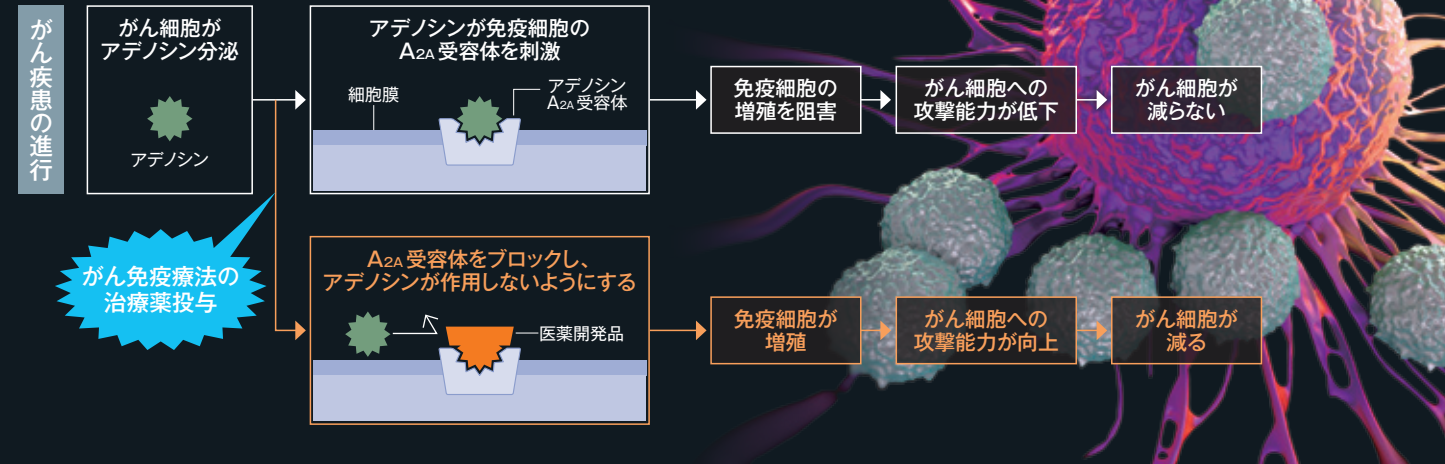
▶ 略歴

2003年 1月	Actelion Pharmaceuticals Ltd.	エグゼクティブ・バイス・プレジデント、チーフ・フィナンシャル・オフィサー
2014年 3月	Novimmune SA	チーフ・フィナンシャル・オフィサー
2015年 1月	Vectura Group plc	取締役チーフ・フィナンシャル・オフィサー
2017年 2月	そーせいグループ株式会社	CFOに就任

既存治療薬との併用も可能な、革新的な がん免疫療法の治療薬を開発中

2015年8月、当社子会社Heptares社は、世界大手製薬会社であるAstraZeneca社と複数のがん種を標的とするがん免疫療法開発でのグローバルな提携契約を締結。2016年6月に第I相臨床試験を開始したほか、2017年4月には前臨床試験で抗PD-L1阻害剤との併用効果が確認されるなど、これまでに2つの重要な開発マイルストーンを達成しました。今後開発が進められると、総額500百万米ドルを超える開発および販売マイルストーン、さらに販売高に応じた最大2桁比率の段階的ロイヤリティを受領することが可能となります。

がん免疫療法のメカニズム



新たな治療法として期待をあつめる 「がん免疫療法」とは

科学のめざましい進歩にもかかわらず、残念ながらがんの診断および治療は未だに不十分です。少しでも有効性の高い抗がん剤が望まれており、世界における抗がん剤市場は2020年までには約1,500億米ドルに到達するといわれています。^{*1}

特に、ヒトの免疫システムを活性化してがんと闘う医薬品、「がん免疫療法」は、近年その有効性が明らかとなり、注目されている治療領域です。

もともと自己の身体の一部である細胞は、がん細胞となることで本来であれば異物として免疫細胞(T細胞)から攻撃を受け、排除されます。しかし、がん細胞は巧妙に免疫細胞からの攻撃を避けるシステムを持っています。この代表的なものがPD-L1(例えるなら鍵)と呼ばれるもので、T細胞上にあるPD-1(鍵穴に相当)を刺激して攻撃から免れます。優れた治療効果が認められた抗PD-1抗体薬はこの鍵穴をふさいでしまうことで、がん細胞がT細胞の機能を弱める、

すなわちがん細胞が攻撃から逃れるのを防ぎます。このように、身体の持っている免疫力を復活させることでがんと戦う力を取り戻すのが、「がん免疫療法」です。

^{*1} IMS Institute for Healthcare and Informatics, Global Oncology Trend Report – A Review of 2015 and Outlook to 2020 (June 2016)

新たな「がん免疫療法」として期待される アデノシンA_{2A}受容体拮抗薬

PD-L1以外にも、がん細胞はアデノシンと呼ばれる物質を分泌することで、免疫からの攻撃を回避することが知られています。アデノシンはT細胞のアデノシンA_{2A}受容体を刺激しT細胞の増殖を阻害、がん細胞に対する殺傷力を低下させます。

このことから、このA_{2A}受容体をふさぐような薬が開発されれば、がん細胞に対する本来の攻撃力を取り戻すことができると考えられます。また、この方法は抗PD-1抗体薬やその他の抗がん剤とは全く異なる新規の治療アプローチとなるので、併用することでより強い治

療効果が得られると期待されます。

Heptares社はAstraZeneca社とともに 「がん免疫療法治療薬開発」を実施

当社子会社のHeptares社は、2015年8月に世界的な大手製薬会社であるAstraZeneca社と複数のがん種を標的とする「がん免疫療法開発」でのグローバルな提携契約を締結し、AstraZeneca社は低分子化合物であるA_{2A}受容体拮抗薬AZD4635 (HTL1071)およびその他のA_{2A}受容体阻害剤の独占的開発・販売権を取得しました。現在開発中の候補品は、受容体選択性が高い(=副作用が少ない)ことや、経口投与が可能のため広く使われやすいなどの特徴をもつことが期待されています。両社はAZD4635のほかにも、がん免疫療法における共同研究プログラムを実施しています。

本プロジェクトでは、すでに2つの開発マイルストーンを達成しています。1つは2016年6月に第I相臨床試験において最初の被験者に投

与されたこと、もう1つは2017年4月に前臨床試験において単剤での効果や、抗PD-L1チェックポイント阻害剤と併用した場合に腫瘍の増殖が低減するなどの併用効果が確認されたことです。これらの結果、Heptares社はAstraZeneca社より総額22百万米ドルの開発マイルストーンを受領しました。単剤でも他の治療薬との併用も可能な、「これまでにないがん免疫療法の開発」を目指し、一人でも多くのがん患者さんを救える、新たな治療薬の創出を目指しています。

開発状況

製品/プログラム	適応	パートナー	Discov.	Preclin.	Phase 1	Phase 2	Phase 3	Market
製品/開発パイプライン (Sosei R&D)								
シープリ®・ウルティプロ®	COPD	ノバルティス社						
QVM149	喘息	ノバルティス社						
Wave 1: 世界大手製薬会社と提携に至ったパイプライン (Heptares)								
ムスカリン受容体M ₁ 作動薬	アルツハイマー病/統合失調症	Allergan社						
M ₄ 作動薬	アルツハイマー病/統合失調症	Allergan社						
M ₁ /M ₄ デュアル作動薬	統合失調症/アルツハイマー病	Allergan社						
アデノシンA _{2A} 受容体拮抗薬	がん免疫	AstraZeneca社						
CGRP受容体拮抗薬	片頭痛	Teva社						
非開示	疼痛緩和	第一三共株式会社						
Wave 2: 自社パイプライン (Heptares)								
mGlu ₅ NAM	神経性疾患							
OX ₁ 受容体拮抗薬	依存症							
OX ₂ 作動薬	ナレコレプシー							
Anti-PAR2 mAb	アトピー性皮膚炎その他							
GLP-1拮抗薬	先天性高インスリン血症							
非開示	消化管障害	JITSUBO社						
複数のターゲット(抗体)	がん免疫療法	Kymab社						
複数のターゲット(低分子)	複数の適応							

提携先	適応	内容
技術提携 (Heptares)		
Pfizer社	複数の領域(低分子/抗体)	複数の領域における最大10種のGPCRをターゲットとした戦略的提携
AstraZeneca社	複数の適応(低分子)	GPCRを対象とする低分子化合物の開発に係る提携
MedImmune社	複数の適応(抗体)	複数のGPCRに対して、抗体検出のための「StaR®抗原」を提供する提携
MorphoSys社	非開示(抗体)	GPCRをターゲットとする治療用抗体の開発に向けた共同研究開発契約

製品/プログラム	適応	開発状況
株式会社アクティブスファーマ		
APP13002	感染性眼疾患	前臨床試験中
APP13007	炎症性眼疾患	前臨床試験中
JITSUBO株式会社		
JIT-2001(後発医薬品)	循環器系疾患	前臨床試験中
JIT-1007(後発医薬品)	希少疾患	前臨床試験中
JIT-2005(後発医薬品)	代謝性疾患	基礎研究
JIT-8012(新規医薬品)	消化器系疾患	基礎研究

連結財務ハイライト

連結業績の概要

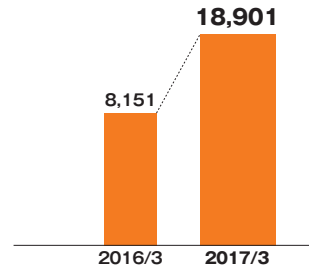
(単位:百万円)

	2016年3月期 (2015年4月1日~ 2016年3月31日)	2017年3月期 (2016年4月1日~ 2017年3月31日)
売上収益	8,151	18,901
売上総利益	8,147	18,901
研究開発費	3,916	3,218
販売費及び一般管理費	3,293	3,572
営業利益	1,075	12,389
当期利益(△損失)	△1,547	9,638

売上収益

(単位:百万円)

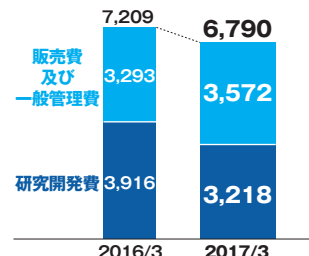
当連結会計年度の売上収益は18,901百万円(前年同期比131.9%増)、これは主に子会社Heptares社が世界大手製薬企業Allergan社との提携契約を締結したことによる契約一時金125百万米ドルを受領したことによるものです。



研究開発費、販売費及び一般管理費

(単位:百万円)

当連結会計年度における研究開発費は3,218百万円、販売費及び一般管理費は3,572百万円となりました。当期研究開発費に関しては、ボンド安による為替変動の影響を大きく受けています。



連結財政状態の概要

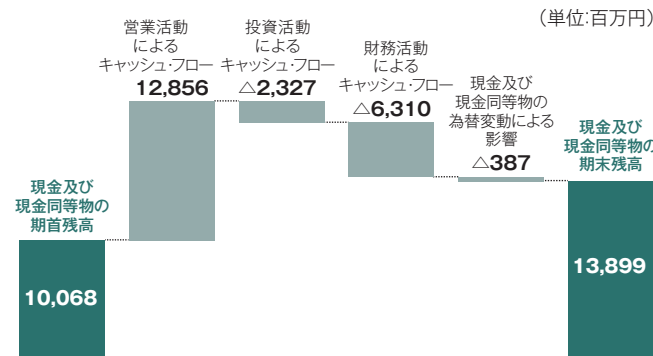
(単位:百万円)

	2016年3月期 (2016年3月31日現在)	2017年3月期 (2017年3月31日現在)
資産合計	47,354	48,087
資本合計	23,269	28,845
親会社所有者帰属持分比率	48.9%	60.0%

連結キャッシュフローの概要

2016年4月1日~2017年3月31日

(単位:百万円)



●営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度と比較して8,384百万円増加し、12,856百万円の収入となりました。これは主に、Heptares社のパイプライン導出により当期利益が増加したこと等によるものです。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の投資活動によるキャッシュ・フローは2,327百万円の支出(前年同期比589.1%増)となりました。これは主に、連結子会社の取得により1,188百万円(12百万スイスフラン)、関係会社株式の取得により500百万円の支出があったこと等によるものです。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度の財務活動によるキャッシュ・フローは6,310百万円の支出となりました。これは主に、銀行借入資金の返済が2,000百万円あったこと、条件付対価の決済に係る支出が5,032百万円あったこと等によるものです。

会社概要／株式の状況

会社概要

(2017年6月22日現在)

商号	そーせいグループ株式会社
設立	1990年(平成2年)6月22日
資本金	26,004百万円
代表執行役社長 CEO	Peter Bains
決算期	3月31日
従業員数	145名(連結)
本社	〒102-0083 東京都千代田区麹町2-4 麹町鶴屋八幡ビル5階 TEL:03-5210-3290 FAX:03-5210-3291
ロンドン・オフィス	2F LBIC, 2 Royal College Street, London NW1 0NH, United Kingdom TEL:+44-(0)20-7691-2081 FAX:+44-(0)20-7209-2484
連結子会社	Sosei R&D Ltd. Heptares Therapeutics Ltd. 株式会社アクティバスファーマ 株式会社そーせい そーせいコーポレートベンチャーキャピタル株式会社
持分法適用会社	JITSUBO株式会社

役員

●取締役	田村 眞一	取締役会会長
	Peter Bains	取締役
	Declan Doogan	社外取締役
	遠山 友寛	社外取締役
	Julia Gregory	社外取締役
	田村 眞一	代表執行役 エグゼクティブ・チェアマン
●マネジメントチーム	Peter Bains	代表執行役社長 CEO
	Andrew Oakley	執行役副社長 CFO
	Malcolm Weir	執行役副社長 チーフR&Dオフィサー
	Fiona Marshall	執行役副社長 CSO

株式の状況

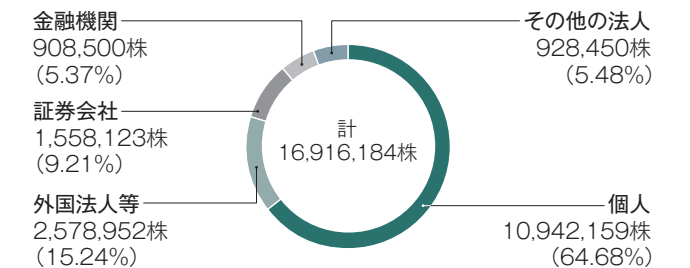
(2017年3月31日現在)

■発行可能株式総数	37,344,000株
■発行済株式総数	16,916,184株
■株主数	24,287名

■大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
五味 大輔	900,000	5.32
ファイザー製薬株式会社	471,284	2.78
楽天証券株式会社	362,200	2.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	309,200	1.82
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	302,909	1.79
松井証券株式会社	278,100	1.64
田村 眞一	251,100	1.48
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS-UNITED KINGDOM	208,500	1.23
日本証券金融株式会社	207,600	1.22
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	189,900	1.12

■所有者別株式分布状況





〒102-0083 東京都千代田区麹町2-4 麹町鶴屋八幡ビル5階

個人株主様専用電話番号 03-6675-9979

※受付時間:9時~12時、13時~17時(土日・祝日除く)



株主メモ

(2017年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
株主確定基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-782-031
インターネット ホームページURL	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
売買単位	100株
公告の方法	当社のホームページに掲載する。 http://www.sosei.com
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ
証券コード	4565

最新のIR情報はホームページにも掲載しています。



そーせい

<http://www.sosei.com>